

## 看護系大学生の高齢者イメージに対する教育的介入：スコーピングレビュー

### Educational interventions to improve nursing college students' perspectives of older adults: a scoping review

池田 彩加 前田 純佳 荒井 葉子 木宮 高代

Ayaka Ikeda Ayaka Maeda Yoko Arai Takayo Kimiya

#### 要旨

【目的】看護学生がもつ高齢者イメージに対してどのような教育的介入が実施されているのか整理し、まとめることを目的とした。【方法】PRISMA-ScRでスコーピングレビューを実施。医学中央雑誌Web版とメディカルオンラインを用いて検索をおこなった。キーワードは「看護学生」「大学生」「高齢者」「イメージ」「老年看護学」とした。【結果】最終的に9件の文献を採用した。研究対象を学年別でみると1年生が4件と最も多く、看護学生の高齢者に対するイメージの評価方法は、SD法が7件と最も多かった。教育的介入として、実習や講義、地域在住高齢者との関わりの前後で比較をしている文献が多かった。【結論】学生のイメージ変容を目的として教育的介入を行っている文献は見当たらなかったことから、今後は学習過程の中で変化をする看護学生の高齢者イメージに対して効果的な教育的介入方法を検討することが課題である。

#### Abstract

**Objectives:** This study summarizes the educational interventions that have been implemented for nursing students regarding their perspectives of older adults. **Methods:** A scoping review was conducted using PRISMA-ScR. The search was conducted using the Japan Medical Abstracts Society's online database and Medical Online. The keywords were 'nursing students,' 'college students,' 'elderly,' 'image,' and 'gerontological nursing.' **Results:** Nine articles were ultimately selected. Based on the academic year, the most common student population was first-year students, with four articles. Additionally, nursing students' perspectives of older adults were most commonly assessed using the Semantic Differential method, with seven articles. Many articles compared students' perspectives before and after practical training, lectures, and interactions with community-dwelling older adults as educational interventions. **Conclusion:** This study found no literature on educational interventions aimed at changing nursing students' perspectives of older adults. Therefore, we should examine effective educational intervention methods for improving nursing students' perspectives of older adults, which tend to change during the learning process.

**キーワード：**看護系大学生 高齢者 イメージ 教育的介入

**Keyword:** Nursing college students Older adults Image Educational interventions

## I. 緒言

わが国の高齢化率は令和5年度29.1%となり<sup>1)</sup>、超高齢多死社会に突入している。それにとともに入院患者の高齢化も著しい。そのため、看護師には高齢患者とその家族のニーズを把握し、適切な看護ケアにつなげていくために、高齢者の生活や思いを具体的にイメージしていく力が必要となる。

大谷ら<sup>2)</sup>は、老人を理解するきっかけとして、さまざまな老人と接する機会を持つことが重要であると述べている。しかし、現代の看護系大学生（以降看護学生とする）は、核家族の増加、コロナ禍でのボランティア活動や地域活動の制限などから高齢者との接触体験が少なくなっている。そのため、高齢者との関わりに困難を要する看護学生が増えていると考えられる。

老年看護学では高齢者の身体的・心理的・社会的な特徴を理解し、高齢者の看護を学ぶことを目的として講義・実習などを展開している<sup>3)</sup>。看護学生は学習過程の中で、身体面の老化や活動性の低下などの高齢者に対するマイナスなイメージを抱いたり、学生自身が関わった高齢者の特徴だけで、高齢者イメージを抱いていると考える。浅井ら<sup>4)</sup>は、看護学生が学習過程の中で高齢者に対して抱くイメージは、講義や演習、実習を通して変化していると述べている。また、吉田ら<sup>5)</sup>は、看護学生が心に抱くイメージは、看護の質・内容に影響すると述べている。高齢者を固定概念で捉えるのではなく、一人ひとりを生活者として捉え、高齢者ケアが実践できるよう導く必要がある。そのためには、看護学生が学習過程の中で抱く高齢者イメージを把握し、教育方法を検討していくことが重要である。

そこで本研究の目的は、看護学生の高齢者イメージに対する教育的介入について体系的に記述することとした。

## II. 方法

### 1. 研究デザイン

本研究は、現在実施されている介入方法やその効果について、既存の研究結果についてまとめるため、スコーピングレビューを実施した。スコーピングレビューは、Preferred Reporting Items for Systematic reviews and Meta-Analyses extension for Scoping Reviews (PRISMA-ScR)<sup>6)</sup>に従って実施した。

### 2. 用語の定義

教育的介入：看護学生がもつ高齢者イメージの変容に影響を与える、老年看護学領域の講義・演習・実習とする。

### 3. 検索方法

電子データベースである医学中央雑誌Web版とメディカルオンラインを用いて、2024年4月24日までの期間に発表された論文に限定して、検索をおこなった。キーワードは、「看護学生」「大学生」「高齢者」「イメージ」「老年看護学」とした。

選定基準の適格基準は、①日本の看護学生を対象とする文献②看護学生の高齢者イメージに関する文献③教育的介入がされている文献とした。除外基準は①会議録②レビュー論文③本研究の目的とあっていない文献とした。文献の選定方法は、一次スクリーニングとして、検索で得られたすべての論文について、2名の著者がそれぞれ独立して、選定基準をもとにタイトルと抄録を評価した。1次スクリーニングで得られたすべての文献を取り寄せ、2次スクリーニングとして同じ2名の著者が、選定基準をもとに独立して全文のスクリーニングを行い、採用論文を確定した。

### 4. 倫理的配慮

本研究と採用された文献に、開示すべきCOI関係にある企業はない。

### III. 結果

#### 1. 文献検索の結果

図1に文献採用までのプロセスを示す。データベースサーチにて、医学中央雑誌 Web 版から 26 件、メディカルオンラインから 3 件、重複を除外し合計 27 件の文献をスクリーニングの対象とした。27 件の文献のうち適格基準と除外基準に基づいて 14 件の文献を除外した。13 件について全文を取り寄せて評価を行い 4 件の文献を除外した。本研究では 9 件の文献を対象とした。

#### 2. 教育的介入の対象学年と評価方法

表1に採用文献の概要を示す。採用文献の研究対象について学年別にみると 1 年生が 4 件、2 年生が 2 件、3 年生が 2 件、4 年生が 1 件であった。看護学生の高齢者に対するイメージの評価方法は、SD 法が 7 件、描画と語句による評価が 1 件、色による評価が 1 件であった。

#### 3. 教育的介入の方法と高齢者イメージの変化

教育的介入の方法について、参加型学習プログラム 2 件、健康高齢者実習と高齢者疑似体験を組み入れた学習が 1 件、高齢者疑似体験と施設見学の連続学習が 1 件、施設実習が 1 件、ライフヒストリーインタビューが 1 件、老年看護学実習が 1 件、早期体験実習が 1 件、講義が 1 件であった。

教育的介入による高齢者のイメージの変化については、山本ら<sup>7)</sup>は、地域の高齢者に関わる早期体験実習は、高齢者との接触頻度が少なく、高齢者への関心が低い学生の高齢者イメージの改善があったと述べている。石津ら<sup>8)</sup>によると、学生が高齢者イメージとして挙げた語句と、老年看護学概論で学修した内容が重なっていることから、学生の持つ高齢者イメージは授業の影響を受けていると考えられ、高齢者理解が深まり、高齢者に対する正しいイメージを持ち、高齢者のもつ

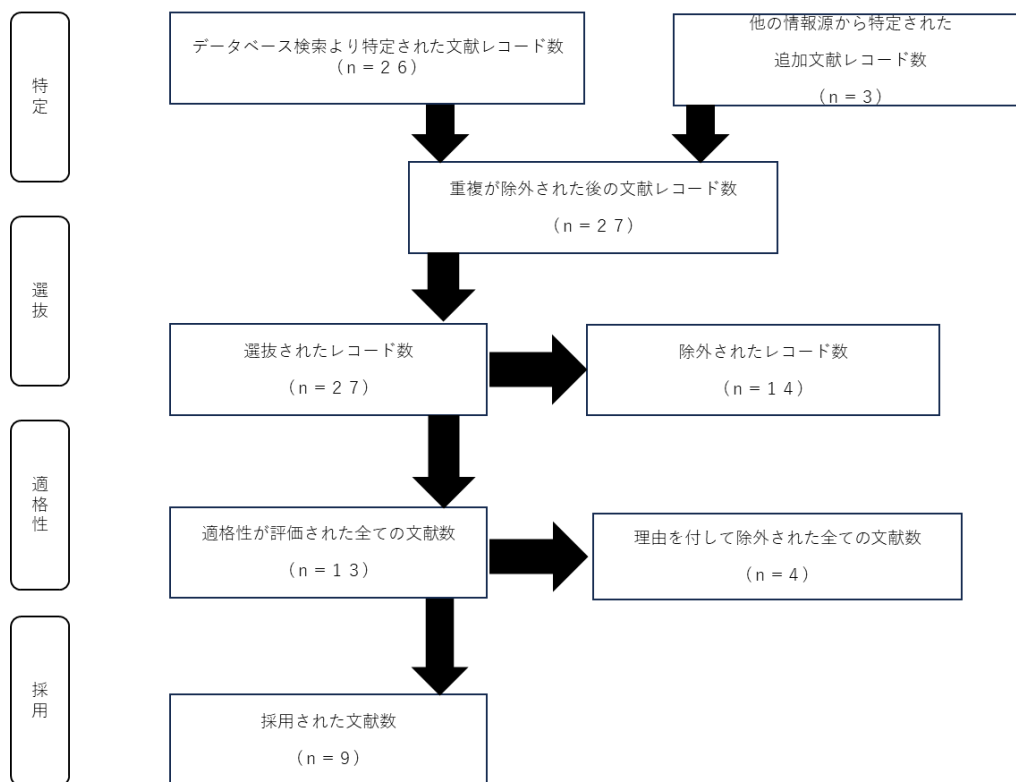


図1. 文献採用までのプロセス

「ポジティブ」な側面にできる限り目を向け働きかけられるような学習方略の工夫と高齢者と接する機会を増やすことが高齢者理解には必要であることが示唆された。松田ら<sup>9)</sup>は、地域在住高齢者のライフストーリーインタビュー後の高齢者イメージは否定的イメー

ジから肯定的イメージへと変化したと述べている。大植ら<sup>10) 11)</sup>は、地域在住高齢者との参加体験型学習プログラム実施後の高齢者イメージは否定的イメージから肯定的イメージへ変容したと述べている。

表1. 文献の概要

	タイトル	著者名 (発行年) ※筆頭者	対象 者	教育的 介入法	評価 方法	結果
1	地域で暮らす高齢者に関わる早期体験実習での看護大学生の高齢者イメージ—先行研究との比較, 考察—	山本祐子 (2023)	1年生	早期体験 実習	SD 法	実習前は高齢者との同居のない学生, 高齢者と接する機会の少ない学生は, 関心の高い学生に比べると, 低いイメージ得点項目が見られた。実習後には, 同居の有無, 接触機会の多少, 関心の高低におけるイメージ得点の差はほとんど認められなかった。
2	老年看護学概論受講後の看護大学生の持つ高齢者イメージ	石津仁奈 子 (2021)	1年生	老年看護 学概論で の学修	描画 と 語句	学生が高齢者イメージとして挙げた語句と, 老年看護学概論で学修した内容が重なっていることから, 学生のもつ高齢者イメージは授業の影響を受けていると考えられる。
3	看護学生・高齢者世代間交流による相互学習の取り組みの効果 ライフストーリーインタビューによる傾聴体験を通して	松田武美 (2015)	2年生	ライフヒ ストリー インタビ ュー による相 互学習	SD 法	看護大学生の老人に対するイメージは, ライフインタビュー終了後は全項目で肯定的イメージになった。
4	看護大学生に対する地域高齢者との参加体験型学習プログラムの教育効果	大植崇 (2015)	3年生	高齢者と 直接触れ 合う 参加型体 験学習プ ログラム	SD 法	参加型体験学習プログラムは, 看護学生の高齢者イメージを「否定的イメージ」から「肯定的イメージ」へと変容させるために有効であった。
5	看護大学生の高齢者イメージと共感的理解に対する参加型学習プログラムの効果	大植崇 (2013)	3年生	高齢者参 加型の健 康プログ ラム	SD 法	参加型体験学習プログラムは, 看護学生の高齢者イメージを「否定的イメージ」から「肯定的イメージ」へと変容させるために有効であった。

表2. 文献の概要(つづき)

タイトル	著者名 (発行年) ※筆頭者	対象 者	教育的 介入法	評価 方法	結果
6 看護大学生の高齢者のイメージ 高齢者施設における 実習前後の変化	穴井美恵 (2012)	1年生	老年看護 学実習 I	SD 法	実習前後を通し,学生は高齢者に対して全体的に肯定的イメージをもっていた,実習前後で有意差が認められた項目は,「穏やかなーはげしい」「現実的なー空想的な」「楽天的なー悲観的な」の3項目であり,実習後に平均点が下降した.実習体験が学生の高齢者イメージの形成や変化に大きな影響を与えていると考えられる.
7 看護大学生の連続学 習による高齢者イメ ージ変化	兎澤恵子 (2006)	1年生	1日目高齢 者理解の 為のレク チャーと 演習 2日目グル ープによ る高齢者 疑似体験, 高齢者施 設見学	SD 法	否定的イメージから肯定的イメージに変化させた.年齢別で高齢者イメージがあり,女性は男性より体験後に「きれいな-きたない」について肯定的イメージに変化する傾向が示唆された.
8 『健康高齢者実習』 プログラムに高齢者 疑似体験を組み入れ た学習効果 高齢者に対する年齢 と色のイメージの変 化より	藤巻尚美 (2007)	2年生	健康高齢 者実習プ ログラム に高齢者 疑似体験 を組み入 れた実習	色に よる 評価	実習が高齢者に対する多様な見方を育成する学習形態であることが確認された.色のもつ意味合いが直接高齢者イメージにつながることは言及できず,色イメージの変化の理由を学生自身の言葉から分析し評価していく必要がある.
9 老人看護実習による 看護大学生の老人イ メージの変化	前畑夏子 (1999)	4年生	老年看護 学実習	SD 法	老人看護学実習では「活動性」「気分性」において肯定的に老人イメージを変化させる効果があった.日頃「老人」と接触のない学生にとって「活動性」により肯定的イメージを持たせるものであることが明らかとなった.

穴井ら<sup>12)</sup>は、高齢者施設での実習前後で高齢者に対する関心・思いは好意的な感情へ変化し、高齢者に対して全体的に好意的なイメージを持っていたと述べている。兎澤ら<sup>13)</sup>は、高齢者疑似体験及び高齢者施設見学による学習は、高齢者イメージを否定的イメージから肯定的イメージに変化させたと述べている。藤巻ら<sup>14)</sup>は、学生の高齢者イメージは、実習開始前は静的なイメージが多かったが、実習終了後には活動的なイメージと静的なイメージの両方が混在しており、健康高齢者実習プログラムに疑似体験を組み入れた実習は、高齢者に対する多様な見方を育成する学習形態であると述べている。前畑ら<sup>15)</sup>によると、老人看護学実習を通して、実習前に老人に対して否定的なイメージを持っていた学生は、老人の持っている力強さや有能さに目をむけられるようになり、肯定的なイメージを持っていた学生は、より現実的に老人を見ることができるようになったことが示唆された。

#### IV. 考察

本研究では看護学生の高齢者イメージに対する教育的介入について体系的に記述することを目的にスコーピングレビューを行った。

本研究で採用した文献は看護学生の高齢者イメージを実習や講義、地域在住高齢者との関わりの前後で比較をしている文献が多く、看護学生の持つ高齢者イメージに対して意図的に介入をした研究は見当たらなかった。

##### 1. 教育的介入の対象学年と評価方法

本研究において、対象となった文献の対象学年は低学年の1, 2年生が6件と多かった。切明ら<sup>16)</sup>は、学生がどのような老人イメージをもっているかを把握し、それが現実と極端にかけ離れている場合には、講義や実習の中で修正していく必要があると述べている。藤巻ら<sup>17)</sup>は、老年看護学実習は、高齢者イメージが肯定的になることが目標ではなく、教員は学生がイメージしたポジティブ、ネガ

ティブ両方を受け止めることが大切であると述べており看護大学に入学後、早い時期に学生の抱く高齢者イメージを把握し、講義や実習を通して教育的介入を行うことで、高齢者イメージを効果的に変容できることが示唆された。

高齢者イメージを評価する方法として7文献がSD法を評価尺度として使用し、描画と語句による評価が1件、色による評価が1件であった。大塚ら<sup>18)</sup>によると老人看護では特に生活の援助を中心に看護が展開されることから、老人に対する抽象的なイメージだけではなく生活について等、具体的なイメージを把握する必要があると述べている。SD法のみでは捉えきれない老人のイメージを把握することができると述べている。教育的介入による高齢者イメージの変容を評価するためには、SD法、描画、色による評価など様々な評価尺度を組み合わせることで、高齢者の身体的特徴や日常生活に関するイメージをより具体的に評価できることが示唆された。

##### 2. 教育的介入の方法と高齢者イメージの変化

本研究では、地域在住高齢者を対象とした学生参加型の学習や実習、講義、病院実習が看護学生の高齢者イメージに影響を与えていることが明らかとなった。教育的介入による高齢者イメージの変化として、学生が高齢者と直接触れ合う学習方法では、否定的イメージから肯定的イメージへの変化が認められた。また、講義形式での学習方法では、講義内容が学生の高齢者イメージに影響を与えることが示唆された。玉井ら<sup>19)</sup>によると健康な高齢者との交流体験によって、学生の肯定的イメージの変化が生じることが明らかになっており、本研究においても文献7件が地域在住高齢者を対象とした介入であったため、介入後に学生の高齢者イメージが肯定的なものへ

変化した研究が多かったと考えられる。

高齢者の看護援助を行う場合、高齢者に対して肯定的なイメージをもつことが重要である。松下ら<sup>20)</sup>によると、肯定的なイメージは肯定的態度や行動を起こさせ、否定的イメージは行動を規制すると述べられており、高齢者に対して肯定的なイメージを持つことは、高齢者ケアに対する関心や学習意欲にも影響を及ぼすと考える。看護学生の高齢者に対するイメージは、老年看護学学修過程でポジティブに変化する<sup>21)</sup>という報告がある一方で、演習や実習で体験する高齢者の具体的イメージが否定的イメージに変化することが報告されている<sup>22)</sup>。また、看護学生のとらえるイメージの傾向は、高齢者の人柄や精神面を肯定的にとらえ、老化や活動性といった身体面は否定的にとらえていることが明らかになっている<sup>23)</sup>。変化し続ける学生の高齢者イメージに対して、学生の持つ高齢者イメージを把握し、学習過程の中で生じるネガティブなイメージに対して、それぞれの教育方法の特徴を生かした介入方法を検討し、否定的イメージを持つ面を把握し、それを肯定的イメージへ変容させるような教育的介入が必要である。

## V. 結語

看護学生の高齢者イメージに対する教育的介入について報告された論文を体系的にまとめた結果、看護学生のイメージ変容を目的として教育的介入を行っている文献は見当たらなかった。看護学生の高齢者イメージに影響を与える教育的介入として、地域在住高齢者を対象とした学生参加型の学習や実習が多く行われていることが明らかとなった。今後は、学習過程の中で変化をする高齢者イメージに対して効果的な教育的介入方法を検討することが課題である。

## 利益相反

本論文内容に関連する利益相反事項はない。

## 文献

- 1) 内閣府, 令和6年度版高齢社会白書, (2024)  
〈[https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2024/zenbun/pdf/1s1s\\_01.pdf](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2024/zenbun/pdf/1s1s_01.pdf)〉(2024.8.26).
- 2) 大谷英子, 松木光子 (1995), 老人イメージと形成要因に関する調査研究(1)大学生の老人イメージと生活経験の関連, 日本看護研究学会雑誌, 18(4), 25-37.
- 3) 田渋あづさ(2009), 看護学生におけるエイジズムと高齢者の援助に対する思い, 東北福祉大学研究紀要, 33, 441-452.
- 4) 浅井さおり, 沼本教子, 柴田明日香(2006), 老人看護学学習過程における学生の高齢者イメージ変化の縦断的検討, 日本看護学教育学会誌, 16(1), 53-61.
- 5) 吉田浩二, 辻麻由美, 原田文子, 他(2017), 看護学生のエイジズムに関する研究, 保健学研究, 30, 39-46.
- 6) Tricco, A., Lillie, E., Zarin, W., et al (2018), PRISMA Extension for Scoping Reviews (PRISMA-ScR): Checklist and Explanation. Annals of Internal Medicine, 169(7), 467-473.
- 7) 山本祐子, 長尾匡子, 得意みのり, 他(2023), 地域で暮らす高齢者に関わる早期体験実習での看護大学生の高齢者イメージ—先行研究との比較, 考察一, ホスピスケアと在宅, 31(3), 267-273.
- 8) 石津仁奈子, 石川りみ子, 江口恭子(2021), 老年看護学概論受講後の看護大学生の持つ高齢者イメージ, 秀明大学看護学部紀要, 3(1)1, 51-59.
- 9) 松田武美, 福田峰子, 梅田奈歩, 他(2016), 看護学生・高齢者世代間交流による相互学習の取り組みの効果 ライフヒストリーインタビューによる傾聴体験を通して, 中部大学生命健康科学研究所紀要, 12, 54-61.
- 10) 大植崇, 瀧本茂子, 小島賢子, 他(2015), 看護大学生に対する地域高齢者との参加体験型学習プログラムの教育効果, インターナショナル Nursing

Care Research, 14(1), 99-109.

- 11) 大植崇, 齋藤智江, 瀧本茂子, 他(2013), 看護大学生の高齢者イメージと共感的理解に対する参加型学習プログラムの効果, 兵庫大学論集, 18, 31-39.
- 12) 穴井美恵, 荻野朋子, 大平政子(2012), 看護大学生の高齢者のイメージ—高齢者施設における実習前後の変化—, 中京学院大学看護学部紀要, 2 (1), 11-17.
- 13) 兎澤恵子, 古市清美, 高木タカ子(2006), 看護大学生の連続学習による高齢者イメージ変化, 群馬パース大学紀要, 3, 47-53.
- 14) 藤巻尚美, 流石ゆり子, 牛田貴子(2007), 『健康高齢者実習』プログラムに高齢者疑似体験を組み入れた学習効果—高齢者に対する年齢と色のイメージの変化より—, 山梨県立大学看護学部紀要, 9, 35-42.
- 15) 前畑夏子, 服部ユカリ, 成瀬優知, 他(1999), 老人看護実習による看護大学生の老人イメージの変化, 富山医科薬科大学看護学会誌, 2, 103-116.
- 16) 切明美保子, 久保宣子, 小笠原みや子(2018), 高齢者看護実習前後の看護学生の高齢者に対するイメージの変化(第 1 報), 八戸学院大学紀要, 56, 141-149.
- 17) 藤巻尚美, 流石ゆり子, 牛田貴子(2008)「健康高齢者実習」プログラムに高齢者疑似体験を組み入れた学習効果(第 2 報)—高齢者の活動性・自立性のイメージに焦点をあてて—, 山梨県立大学看護学部紀要, 10, 93-101.
- 18) 大塚 邦子, 正野逸子, 日浦瑞枝, 他(1999), 看護学生の老人のイメージに関する研究—SD 法によるイメージ評価と描画特徴とを中心に—, 老年看護学, 4(1) 98-104.
- 19) 玉井保子(1989), 地域にいる老人との交流を深めた老人看護実習の初期ステップ, 第 20 回日本看護学会集録一, 57-9.
- 20) 松下昌子, 森下利子, 出川富貴子(1997), 看護学生の老人イメージ—日本とスウェーデンの比較—, 看護展望, 22 (7), 826-831.
- 21) 大塚邦子, 正野逸子, 日浦瑞枝, 他(1999), 看

護学生の老人に関するイメージの研究 SD 法によるイメージ評価と描画特徴とを中心に, 老年看護学, 4 (1), 98- 104.

22) 畑野相子, 北村隆子, 安田千寿(2010), 老年看護学教育プログラムが看護学生の高齢者イメージ形成過程に影響する要因 (第 1 報) 1 年次から 2 年次における老年看護学授業前後の比較, 人間看護学研究, 8, 35- 45.

23) 伊藤豊美, 住垣智恵子, 後藤友美, 他(2010), 老年看護実習における看護学生の高齢者に対するイメージの変化, 国立看護大学校研究紀要, 91, 37-42.